

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572709541	
法人名	有限会社クリーンマジック	
事業所名	グループホーム大雄 1ユニット	
所在地	秋田県横手市大雄字上田村東38番地	
自己評価作成日	令和3年10月13日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団	
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1	
訪問調査日	令和3年11月17日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年も新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、外出が制限されることが多かった。オンラインやビニールカーテン越し、窓越しで面会を行った。直接ふれあうことはできなかったが、久しぶりに顔を合わせると喜んでくれた。外へ散歩に出かける機会を増やしたり、ホーム内でのレクリエーションや季節の行事を行い楽しんでいただいた。職員が避難誘導の手順を忘れないように、また、利用者がいざという時に避難する場所を覚えて外へ行けるように、4月から10月まで毎月いろいろな想定で避難訓練を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年はコロナ禍により毎年参加していた地域の行事等には参加できない状況であるが、管理者をはじめとする全職員が地域における福祉事業所の役割を理解しており、事業所開設以来「ホームだより・煌雅」を発行し、介護や健康等に関する情報発信を継続している。また、地域住民や地区消防団と協力し、「もらい火」「地震」「水害」等の各種災害を想定した避難訓練を実施しているほか、非常時の炊き出し訓練を行い、災害時にも利用者が安心安全な生活を維持できるよう取り組みの強化が図られている。事業所では、利用者が楽しく健康に暮らすことを目的とした各種の委員会が設置されており、特に虐待予防・働く環境委員会では、利用者の権利擁護及び人権尊重を基軸とし、身体拘束廃止・虐待防止に取り組んでいるほか、職員が働きやすい環境作りの為、職員からの意見や要望を大切に事業が運営されている。事業所のホールや居室等は、隅々まで掃除が行き届いており、快適な生活空間が利用者の笑顔にも繋がっていることが確認できた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で利用者様が望む暮らしを考え、わかりやすい言葉にし、食堂へ掲示している。利用者様に合わせた生活ができるよう日々取り組んでいる。	「望・楽・笑・心」と言う理念が事業所内に掲示されており、職員一人ひとりが理念を意識した介護に取り組んでいる。 また、新人職員研修では、理念を詳しく具体的に説明し、理解を深めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際に挨拶を交わしている。近所の方が収穫した野菜を持ってきてくれた。地域の行事が感染予防で中止となったため参加していない。	コロナ禍により地域の行事が中止となった為、行事等には参加していないが、地域にある福祉事業所の役割を深く理解しており、地域住人に対して「ホームだより・煌雅」を発行し、利用者の日常生活を紹介すると共に、腰痛予防や便秘解消体操等を紹介している。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議の際や広報に認知症についての知識を載せ伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況やヒヤリ・ハットの内容について配布し報告している。意見交換や情報収集を行い、サービスの向上・改善に努めている。	コロナ禍ではあるが、会議には地区会長や民生委員、市町村職員、家族に出席頂き、事業運営に関する報告を行っている。また、出席者からは、コロナ感染症に対する色々なアドバイスを受けている。この会議内容は、全職員が会議録を確認し共通認識が図られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や地域ケア会議の際に相談したり、月一回横手市の相談員の訪問があり情報交換を行っている。	関係市町村とは、コロナウイルスワクチン接種に関することや防災並びに生活保護等についても連携強化を図っている。また、毎月、横手市から介護相談員の訪問があり、「利用者の声」に関して貴重なアドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止にむけての勉強会を行っている。1名ベッドから転落する可能性があり、ご家族より許可をいただき壁を含む2点柵をしている。玄関に施錠はせず、自由に出入りできるようにしている。	事業所内に身体拘束廃止委員会を設置すると共に、身体拘束適正化のための指針を整備し、職員個々の身体拘束廃止に関する意識付けが強化されている。また、事業所内勉強会で身体拘束をしない介護について学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会を行い、対応に注意するよう職員間に周知を図っている。万一発見した場合は、早急に確認ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している方はいないが、必要性を感じた際は、関係者に相談していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書等でわかりやすい言葉で説明し、一つひとつ意向を確認しながら同意を得ている。ホーム見学時や面接時も話を聞き取り、説明を行っている。法の改定時には書面で説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一回状態報告文を送る際に、意見書を同封している。玄関に意見箱を設置している。面会時には利用者様の状態報告をし、要望の聞き取りを行っている。	今年は事業運営等に関して、利用者及び家族等から特別な要望等はなかったが、職員はいつでも要望や意見を受け入れる体制作りを継続している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議を行っている。働く環境委員会を設け、意見や悩み要望等を書いてもらい、内容によっては話し合いを行っている。	働く環境委員会を毎月開催し、風通しの良い職場づくりを推進すると共に、日頃の業務の中で、職員が気付いた改善事項等について、気軽に上司に相談できる体制が整えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	代表者に管理者が職員の勤務状況を報告している。働く環境委員会での意見を受け、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内で勉強会を行っている。外部研修は参加できていないのが現状である。職員一人ひとりの様子を見てアドバイス等をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は横手市グループホーム協議会を開催していないため参加していないが、今後集まりがあれば参加する予定である。地域ケア会議では事業所の事例検討に参加したり、必要に応じて相談し情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に本人から意見や要望等を聞き、安心できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学時や面接時に、意見や要望等の聞き取りをしている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と一緒に作業を行ったりいろいろなことを教えてもらい、共に支え合う関係を築いている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の要望に応えられるよう、ご家族に相談したり協力をお願いし、利用者様が安心して過ごせるようにしている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、やむを得ない場合を除いて、窓越しやオンライン面会を実施している。	コロナ禍においても、利用者や家族及び知人との交流が途切れないよう、オンライン面会等、様々な工夫により対応している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が共に支え合い、助け合えるよう努めている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケアマネージャーと連絡をとったりし、その後の経過を観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から聞き出したり、毎月の望みの聞き取りを行い、実現できるように取り組んでいる。困難な場合は、利用者様の立場になり検討している。	利用者とは頃から何気ない会話を通して、利用者の望みや思いを汲み取り、チームとして共通認識を持ち対応している。また、ケアプランに利用者の望みが反映されていることが確認できた。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時に聞き取りを行っている。日々の会話の中で聞き、職員と情報を共有している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活ペースに合わせて過ごしていただいている。生活の様子を記録に残して申し送りを行い、現状把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議や日々の生活からの様子やご家族の要望を聞き、介護計画を作成している。	利用者個々の望みや思いと家族の意向を充分に確認した上でのケースカンファレンスを行い、ケアプランを策定している。また、全職員が利用者個々のケアプランの内容を把握しており、チームとして対応していることが確認できた。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の様子や状態変化を介護記録に記入し、申し送りを行い情報を共有している。必要に応じて介護計画に追加・見直しを行っている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は感染予防のため外出する機会は減った。散歩には出かけるようにし、その際は声をかけていただいている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が希望している病院・かかりつけ医を利用している。嘱託医へは24時間連絡・相談ができる体制を整えている。	利用者や家族が希望するかかりつけ医への通院は、利用者個々に職員が付添を行い、通院後は家族に本人の状況並びに診察内容等を報告している。また、かかりつけ薬局では、内服薬の一包化及び錠剤を散剤にするなどの協力を頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師へ状態報告し、介護や手当のアドバイスをいただいている。体調不良時や気になることがある時は、直接医師へ連絡し、適切なアドバイスをいただいている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの生活の様子を情報提供している。現在は面会ができないため、看護師や医療相談員と連絡をとり話し合いをしている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、ご家族、ホーム職員とで相談し、今後の方針についての話し合いをしている。その際は、訪問看護等も利用できるよう主治医、ご家族と相談している。	看取り経験のある事業所であり、重度化対応・終末期ケア対応指針を整備しており、可能な限りホームで看取り介護に取り組んでいくことについて職員の共通認識が図られている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ユニットに緊急時対応マニュアルを準備し、いつでも確認できるようにしている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	4月から10月の間は毎月避難訓練を行い、年2回は消防立ち会いのもと通報訓練をおこなっている。地域の消防団にも協力をお願いしている。	各種災害を想定した避難訓練を実施しているほか、地区消防団と連携強化し、安全対策の徹底が図られている。また、非常時に使用する発電機や3日分以上の備蓄食料が確保されている。	
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さりげない声かけを行い、声の大きさやトーン、話す場所等を気をつけ、誇りやプライバシーを損ねないようにしている。	利用者の個人情報及びプライバシー保護に関する勉強会を全職員が受講できるよう複数回行っている。また、研修は年間計画に基づいて行われており、個人情報の研修は4月早々に実施されている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中から望みや思いを引き出したり、自己決定しやすいような場面作りを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた声かけや支援を行うようにしている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理容を利用したり要望に応じて毛染めを行っている。現在は感染予防のため出張理容は利用していない。身だしなみが整えられるよう準備し支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使用し、季節や行事に合った食事の提供を心がけている。準備や後片づけができるよう、利用者様には一緒に手伝っていただいている。	職員が季節の素材と栄養を考慮した献立を作り、まごころの込められた食事が提供されている。また、利用者自ら食器のすすぎや食器拭きなども行っている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量を記録し、状況に応じて補食をすすめている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけをし、利用者様に合わせて見守りや介助を行っている。週3回ポリデント洗浄を行っている。今年度は感染予防のため歯科健診を行っていない。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄できるよう誘導している。利用者様に合わせて、使用するパッドの種類を使い分けている。	排泄支援は本人のデリケートな部分が含まれていることを全職員が理解し、利用者の行動やサインを見逃さず、さりげない声掛けにより自立支援を目指した排泄支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や運動をすすめたり、牛乳やヨーグルト等の乳製品、水分摂取をすすめている。便を出しやすくするため薬を内服している方もいるが、利用者様に合わせて内服する量や時間を調整している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の状態に合わせて清拭やシャワー浴、湯船に入る等の対応をしている。	利用者個々の入浴日を指定せず、利用者の希望に沿った入浴を実施している。また、入浴中は、さりげない会話を心がけ、利用者の思いを把握できる貴重な時間となっている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活習慣や状況に合わせて、休息の声かけや誘導をしている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は職員がいつでも確認できるように、利用者様ごとのファイルに保管している。申し送りや連絡帳で情報を共有し、内服後の様子を記録に残している。薬剤師にも相談している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活全般を職員の介助で行っている方もいるが、できる方は食器拭きやタオルたたみ等を一緒に行っている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現在は新型コロナウイルス感染症の感染予防のため外出は控えている。今年は地域の行事は中止となり、参加はしていないが、参加している時は地域の方にも協力していただいている。	コロナ禍で地域行事等に参加できない状況であるが、天気の良い日には、ホーム周辺の散歩やホーム近隣にある緑花園まで外出し気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	すべて職員が管理している。欲しい物がある時は職員が代わりに買い物をしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという訴えはほとんどない。手紙を書くこともほとんどないが、届いた際は渡して見ていただいたり、代読したりしている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光や温度・湿度調整を行い、過ごしやすいようにしている。ホームに季節の装飾を行ったり、行事や外出の写真を飾ったりしている。	環境衛生委員会を中心となってホーム内の壁面等に季節を感じることで飾りつけがされており、家庭的な雰囲気が感じられる。また、快適に生活を送ることができる室温や湿度の管理が徹底されているほか、ホールや居室の隅々まで掃除が行き届いており、快適な居住空間が提供されている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の状態に合わせるために、食事は座る場所が固定となることが多い。その他はソファに座って過ごしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新しい物だけでなく、自宅で使用していたものを持ってきていただいている。ご家族の写真や贈り物は、利用者様の見えやすい位置に飾っている。	各居室にはベッドや衣類ケースが整備されているほか、家族の写真や本人が使い慣れた私物を持ち込み、落ち着いた生活が送れるよう配慮されている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の目線に合わせた場所に張り紙をしたり、時計を置いている。食堂や居室は、利用者様の状態に合わせてその時々で配置を変えている。		